

全科協ニュース

1981年7月1日発行
(通巻第60号)

全国科学博物館協議会

東京都台東区上野公園
国立科学博物館内

☎ 110

Tel. 03-822-0111(大代)

おもな内容： ◇デンマークの博物館をみて 東海大学海洋科学博物館 永井彰 ◇特別展「世界を結ぶ東京港」を開催して 船の科学館 ◇オートプラネタリウムを使っての苦心談 サンシャインプラネタリウム 藤井常義 ◇中国自然科学博物館協会の誕生 ◇昭和56年度全科協総会の開催 ◇ポートピア '81とコンピュータ工場の見学会 ◇第10回博物館事業研究会 ◇会員館園の消息など

〔海外の博物館〕

デンマークの博物館をみて

東海大学海洋科学博物館 永井彰

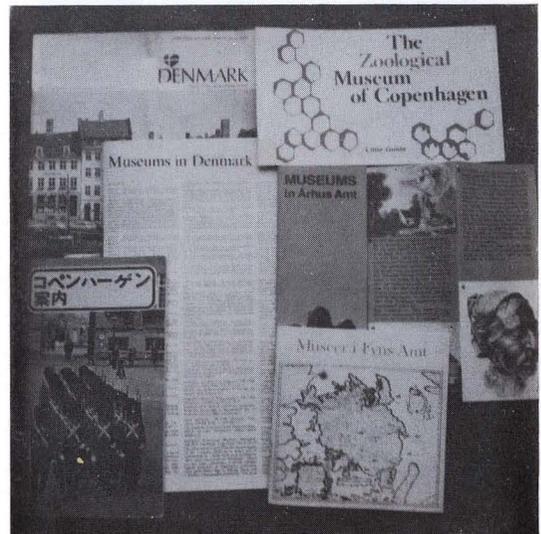
デンマークというと狭いヨーロッパの中で小さい方だから、皆様はどんな印象をお持ちだろうか。面積は日本の9分の1で九州より少し広いだけ、人口も500万人余だから東京の半分に過ぎない。首都はコペンハーゲンでシェラン島という島にあるが、北緯55度を越えており北歐といわれる理由もうなずける。今年の4月にはデンマーク女王マルガレーテ二世が訪日されたし、日本初の女性大使高橋展子氏の赴任先でもある。社会保障の進んだ文化水準の高い国だと紹介されているが、旅行会社のパンフレットをみるとアンデルセン童話の中で人魚姫が生まれ、みにくいあひるの子が白鳥に生まれかわったメルヘンの国としても紹介されている。

このデンマークには東海大学の施設があり、東海大学ヨーロッパ学術センターと称しているが、これを基地にして大学の国際交流のための仕事、例えば留学生の交換や学生、教員の研修についてのアレンジ、学术交流としてシンポジウムの開催や日本文化を紹介する催しなどを行っている。筆者は昭和54年の春から1年半この施設に滞在したので、仕事のあい間にデンマークの種々の博物館をできるだけ見て歩くように心がけた。

「デンマークの博物館のすべて」という本には500以上の博物館が紹介されている。この中には小さな村の郷土館や個人のコレクションの公開のようなものから、大は一日歩き続けても廻りきれない野外博物館まで大きさも内容も多様である。しかしあの狭い国土に人口1万人当たり1つの博物館があるというのは決して少ない数で

はない。やはり博物館を通じての社会教育活動が活発であることを示す数字ではないかと思う。

そのうえ、これらの博物館に対する案内が統一的にされていることに最初は驚いた。外国からの旅行者が空港につくと、先ず待たされる荷物受け取りの回転台の所にコペンハーゲン案内のパンフレットと地図が豊富にあり、誰でも無料で手に入れられる。これは英語、ドイツ語のほかに日本語版も作ってある。70ページほどのパンフレットの中には交通機関の利用法やホテル、レストランの案内のほかに見落とさたくない見学場所として



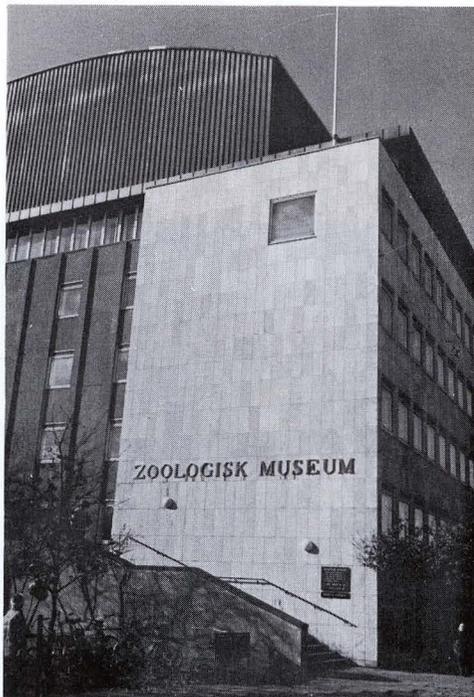
デンマークの博物館案内のパンフレット

博物館と名所のページがあり、コペンハーゲン周辺の58の博物館について場所、行き方、特徴、開館時間、入場料についての説明がなされている。観光案内所には博物館だけの説明をしたパンフレットも用意されていて、全部無料で希望者にくれる。

これは地方都市オフィスとかオデンセに行っても同じで、博物館に関する情報がいつでもまとめて手に入り、各人の興味に従って行き先を選べるようになっていいる。主なものでは野外博物館のほかにクロンボー城のように16世紀にできたお城がそのまま海事博物館として利用されていたり、フィヨルドに埋まっていたバイキングの船を掘り出したバイキング博物館、アンデルセンの手紙原稿・写真などを集めたアンデルセンの家など特色のあるものが少なくない。しかしここでデンマークの博物館全体について述べることはできないので私がたびたび足を運んだ動物学博物館について印象を述べてみたい。

この博物館はコペンハーゲン大学動物学研究所の5階と6階をつかってつくられている。5階にはデンマークの動物、6階には北極から南極までの世界の動物についての生態ジオラマが中心になっている。

特に身近な動物や昆虫、例えば「ブナの森の落ち葉の下で」とか、アリ塚をそのまま持ちこんだ「アリの丘」など小さいものを拡大したり、テレビカメラを入れてみせたり、「動物たちの夜」という暗いコーナーでは夜行



コペンハーゲンの動物学博物館

性の動物の習性をみせるなど斬新な手法を導入している。「海外の動物」の展示にはビデオテープでエリマキシギの求愛の時の行動がみられるし、ボタンを押すと照明が変わってライチョウやテンが夏羽から冬羽に変わるものなどは子供たちに人気があった。

自然史系の博物館は、概してロンドンの自然史博物館がお手本になっている所が多い。ここは展示の基本に分類学的なものがあるので、魚、鳥、昆虫のように分類群で分けられてしまうが、デンマークでは全面的に生態学的な展示に変え分類学的なものは一番奥まったところにデンマーク産の哺乳類と鳥類が並べてあるだけである。ちなみにデンマークの帰途ロンドンに立ち寄ったら自然史博物館の生態のところは改装中でどのようになるのかは見学できなかった。

デンマークの動物学博物館の中ほどにはインフォメーションデスクがあり、常時学芸員の人がいて質問に答えてくれる。子供には動物生態クイズのカードがあり、「キツネはどんなものを食べているか」、「ミツバチは蜜をみつけるとどうして仲間知らせるか」のような問題が並んでいる。子供たちは正解を館内の展示をみながらさがして記入し、学芸員のところに出しにくる。

平日だとしばしば校外授業として先生につれられた子供たちも来ている。ただ1クラスが小学校で20人位だから先生の統率はよくゆきとどいているようだ。私が見たときは入口でにぎやかだった子供たちが先生についてどんどん奥へ入ってゆく。入口から順にみてゆくのではなく動物の食べ物のコーナーのところでは子供たちを半円にすわらせて説明したりメモをとらせたり、質問をしたりして生徒と話し合い、関連した展示3つをみせたら他の展示は見ないで40分ほどで帰っていった。すでに博物館が教材の中に組み込まれていて、その時点で教育内容にふさわしい所だけにしばって、展示を見せながら理解させていくという態度がうかがえた。

もっともこの博物館は入館料が無料だからこのような利用ができるのだろうが、日本では目を絞らず、何があるかのぞいてみよう式の入館が多いし、小中学生の団体の場合でも見どころの説明は旅行業者まかせといった態度のところもまだ残っているようで、一度下見した先生は入館せずに休憩しているような例も見かける。

日本の博物館は数も増え、展示技術の向上もめざましく、内容の充実、多様化は非常に進んできたと思う。しかし、このような展示を社会教育にどのように生かしてゆかについては、博物館側も入館してくれる来館者の側にももう一つ努力すべき点が残っているように感ぜられる。

〔特別展〕

特別展「世界を結ぶ東京港」を開催して

船の科学館

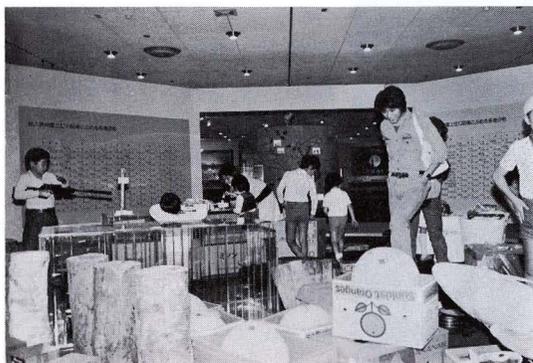
東京港は、昭和16年、関税法によるところの外国と貿易のできる港、国際貿易港として開港以来、本年で記念すべき40周年を迎えた。しかし、神戸・横浜・長崎などの古くからなじみのある港湾都市と比較して、ミナトとしてのイメージに乏しく、更には、港の存在性・必要性において都民の意識が低いように思われる。こうしたことから、東京都では、港湾局が中心となって、毎年、開港記念日の5月20日の前後に、みなと祭りを開催し、都民の消費する物資の約30%を賄う東京港のイメージアップを図っている。

東京港のほぼ中心に位置する当館は、これに呼応して、開港記念日に先立つ5月10日より6月30日までの間、「世界を結ぶ東京港」開港40周年記念特別展を開催することとした。

昨年の予算申請時には大枠の企画内容をつめてはいるものの、実質的なスタートは予算の確定した4月上旬で、結局のところ正味1か月で企画・設計・収集・展示を行うこととなった。時間的に無理な開催であり、例年なら、時間的に余裕のある秋に行う特別展となるが、5月20日の開港記念日にタイミングを合わせた結果であった。

東京港は、昨年、ニューヨーク・ニュージャージー港と姉妹港提携を行うなどますます躍進著しく、このため、関係官庁、各種団体、会社などの積極的な協力が得られた。運輸省関東海運局・第三管区海上保安本部・東京都港湾局の後援が得られるとともに資料の提供には、東京都港湾局をはじめとして52に及ぶ団体の協力を得ては希望する展示資料を集めることができた。

- 展示場は、
1. 東京港の歴史
 2. 港のはたす国際親善
 3. 東京港で扱われるもの
 4. 東京港で働く人と船



5. コンテナシステム
6. 日本の港・世界の港
7. 未来の港

の7つのコーナーから構成されており、直径3メートル、高さ3メートルの円柱に東京港と世界の港を結ぶ航路図を配したパノラミングマップを、主な展示物として、ジオラマ模型1点、錦絵2点、船舶模型7点、港旗12点、官公庁船舶旗7点、東京港とニューヨーク・ニュージャージー港姉妹港提携証書他5点、密輸入品例10点、東京港で扱われる物資20数点、これらに写真パネル等を189点展示しビデオフィルム14本による補足説明を行っている。展示場の導入部には、世界各国の著名な港の旗が吊り下げられている。在日の港湾局事務所から借用したものであり、色・形とも、それぞれに特徴をもっており、展示場に色彩りをそえている。

東京港で扱われるもののコーナーでは、床面を赤と緑の2色のじゅうたんで色分けすることにより、輸入と輸出を表して、東京港で扱う代表的な品々がおかれている。輸入のスペースには、生ゴム、原糖、木材などの実物や発泡スチロールで作ったオレンジ、まぐろなどが置かれている。輸出のスペースは、コンテナの中におもちゃや精密機械などを入れ、鉄鋼・タイヤなどが置かれている。見学者が直接手に触れるコーナーである。

東京港で扱われるもののコーナーの一角には、密輸品の展示がある。東京税関から借用の展示品で金の延べ棒（模造）や、延べ棒持ち込み用チョッキ、ピストルを持ち込むために切り抜かれた本、大麻、覚せい剤（模造）などが展示され見学者の目を引いている。

東京港で働く人と船のコーナーは、港を訪れる人の目に何げなく映っていた情景を「人と船」を通じて、身近なものに感じとらせるコーナーとなっている。地域に立脚した特別展を企画したことで、そこに働く人々や諸団体の全面的な支援が得られ準備期間の不足を補う展示ができたものと考えられる。

本特別展は当初6月末日までの開催予定であったが、8月末日まで延長開催している。（展示課 斎藤 薫）

全科協北から南から

オートプラネタリウム使ってみての苦心談

サンシャインプラネタリウム

藤井 常 義

ボタン操作ひとつで投影が進行する、オートのプラネタリウムという一見非常に便利で使いやすいかのように思われがちである。しかし、実際使う立場に立つと運営面、ソフト制作面において、むしろ従来のマニュアル操作のプラネタリウムと同等あるいはそれ以上にオートを使いこなすのは大変なことである。

当館の投影機（ミノルタ製MS-18型）は、オートの1号機のため、当初は一時停止（投影の途中でポーズ状態を保つこと）、途中再現（投影の途中より再現可能なこと）機構が組み込まれていなかった。このため、番組の途中で恒星球等のランプが切れた場合は、投影をまた最初からやり直さなければならない仕組であった。特に日・祝日の混雑時にこのようなことが起こると入館者に迷惑をかけることになるので、これにはかなり閉口し、番組を前半部と後半部に分けて制作した。このようにして、投影中に番組の後半でトラブルが生じた場合などは、最初からやり直さず後半部だけ再現できるようにした。

しかし、このためにコンピューターに記憶させるマークシートによるプログラムは、完成プログラムと後半部プログラムと2種類制作することになった。これらのプログラムは、新番組組み込みのための5日間の休館ではとてもできず、完成プログラムを作るだけが精一杯であった。従って後半部プログラムは新番組がスタートしてから1週間以内に作成することを目標とするようにした。

しかし、今年6月のコンピューター改修工事により、一時停止、途中再現機構を組み込むことができ、さらに

記憶容量も400シーケンスから600シーケンスまで増したため、今後はこのような心配がなくなりホッとしているこの頃である。

一方、1回の投影で100台以上もの投影器を使っている関係上、ランプ切れ以外にもいろいろなトラブルが生じる。たとえば、スライド投影器のコマ送り機構の不良、ポインター等のリレー回路の不良、インターフェイス関係の不良などがある。これらのトラブルに対しては、あらかじめ番組を制作する段階で、必ず予備器を準備しておき、なるべく1台の投影器でいくつものスライドを映さず1つを確実に投影する方法にしている。従って投影器が故障した場合は、直ちに予備器に交換し、また演出上、場違いのスライドが投影されるようなことはなくなった。

それでも、今後大きなトラブルが生じる場合、例えばコンピューターが故障することがあるかもしれない。コンピューターが故障すると現在のシステムでは、オートの投影はもちろんのことマニュアル操作も全く不能になってしまう。このような状況を仮定して、現在マニュアルでドームスクリーンに映せるビデオソフトの制作をしている。

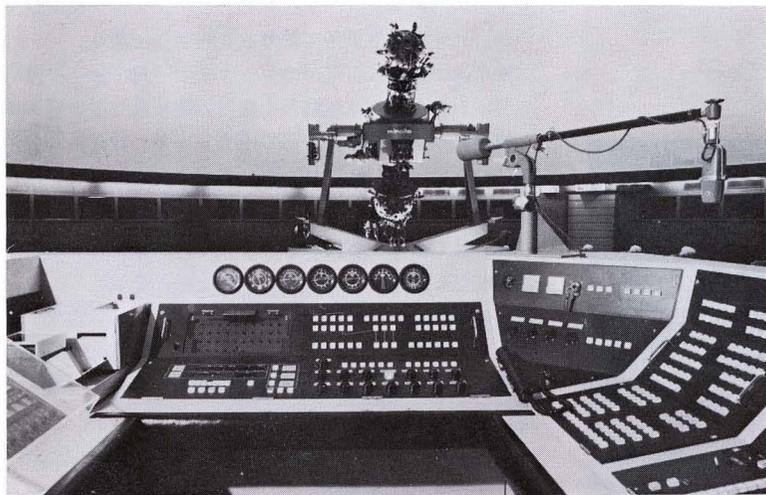
さらに、一般投影から幼稚園投影に番組を切り変える際にもトラブルが起こることがある。

さて、オート投影担当者はこのようなトラブルが起きぬよう、常に投影の状態を監視し、トラブルが生じた際には臨機応変の処置ができるよう訓練をしている。また

同時進行で最大の難関である番組制作に取り組んでいる。その他にマニュアル専用の学年別の学習投影の準備もしなければならない。

こうしてみると、オートの投影機を使っている運営も結構面倒のように思われる。しかし、オート投影機には、マニュアル操作では決してできないような素晴らしい複雑な演出を再現してくれる良さがある。

当館では、このオート投影機の機能を充分生かし、一般の人に少しでも天文の興味が湧くようソフト制作面においても苦心している。



中国の全科協

中国自然科学博物館協会の誕生

このたび、中国国内における全科協ともいえる「中国自然科学博物館協会」が発足したというニュースが、北京自然科学博物館の編集による「大自然」第3号に掲載されていたので、その翻訳を以下に紹介したい。

中国自然科学博物館協会北京にて成立

中国の自然科学博物館事業
強化をめざし建議書を採択

1980年11月26日～12月2日、北京において中国自然科学博物館協会第1回代表大会が開催された。全国各省、市、自治区から67の自然科学博物館、科学技術館、地質館、天文館、人類館、動物園、植物園、自然保護区の代表、さらに寧夏、青海、河北、河南等の省科学協会等、特別招待の代表合わせて120名余りが大会に出席した。代表として参加した人々はともに一堂に会したことを喜び、心ゆくまで語り合い、中国の自然科学博物館界史上空前の盛会となった。

準備委員会主任であり古人類学者として名高い裴文中教授が開幕を宣言し、秘書長の黎先耀氏が準備活動報告を行った。また中国科学協会副主席黎麗生氏も出席して挨拶し、博物館は科学普及の大きな広場であることを強調、関係者が思想を解放して経験を重ね、中国の博物館事業の発展を促すよう励ました。席上、博物館事業に熱心な老科学者が相次いで発言し、内外の自然科学博物館の歴史や国外の状況を述べて中国での体験は省みた。その他、大会では専門別による博物館学の理論や技術の交流、北京自然博物館、地質博物館、天文館、農業展覧館、軍事博物館、北京動物園、植物園の参観等も行われた。

大会は「中国自然科学博物館協会規約」を定め、第1期理事会を選出した。理事会人事は以下のとおりである。

理事長：裴文中

副理事長：周明鎮、張問松、高振西、譚治、黎先耀(秘書長を兼任)

常務理事：呂濟民、許維枢、蘇良赫、陳曉中、周明鎮、祝一新、張問松、南璋君、胡承志、高振西、宦毓棠、

崔平、黒延昌、裴文中、譚治、譚邦傑、黎先耀

また、大会は中国自然科学博物館事業強化のための建議書を國務院に提出した。

建議書

國務院殿：

中国自然科学博物館事業発展の促進、4つの現代化建設期における新形成への適応を目的とする中国自然科学博物館協会第1回代表大会が1980年11月26日から12月2日、北京にて開催された。会期中、参加者一同は党活動の重点を社会主義建設に移行するという精神にのっとり、実際の状況を考慮したうえで目下の全国自然科学博物館事業に存在する主要な問題について以下の建議を提出する。

(1) 我国の各種自然科学博物館はその所属するところが、科学技術関係、文化・文物機関高等教育機関、研究所、企業部門、国家機関等々さまざまになっている。博物館をめぐる統一的計画、指導を強化するためにも民間の協会組織を作ること以外にぜひとも國務院の下に「国家博物館事業管理局」を置いて我国の博物館事業の計画・指導を体系化することが必要である。

(2) 可能な限り省、市レベルで積極的に各種の自然科学博物館を持つこと、このような条件の整っていない地域でも省、市の博物館内に自然部門を作りその発展を図ること——全国科学大会の精神に従って重ねてこの点を望んでおく。

(3) 博物館の人材養成のため、総合大学に博物館科(あるいは専攻)を設置し、現在その準備を進めている杭州大学、鄭州大学等には教育部門から積極的支持を与える。

(4) 自然科学博物館事業の発展を促すため北京に国家自然史博物館を設立する。また関係省、市、自治区には自然歴史博物館や科学技術館を設立もしくは拡大する。

中国自然科学博物館協会

第1回大会

1980年12月2日 北京にて

昭和56年度博物館職員講習終わる

国立社会教育研修所主催による昭和56年度博物館職員講習は、昭和56年6月4日から6月23日まで開催された。今回の講習科目は、博物館学、教育原理、生物学、

視聴覚教育それぞれ1単位であり、昭和55年度と同講習と合わせて受講すると自然科学系学芸員の資格が取得できるようになる。この講習は、全科協を中心とする現場からの要望によって実現したという経過もあり、全科協としてもその実施に協力している。

昭和56年度全科協の理事会、総会の開催

7月1日(水)、昭和56年度の全国科学博物館協議会理事会及び総会が、国立科学博物館大会議室で開催された。出席館は31館で、委任状提出館が10館であった。

はじめに福田繁理事長から、博物館職員の訓練について国際的な研修プログラムの基準が作成され、各方面から賛同が寄せられているが、日本の博物館ももっと国際的な場に参加していくべきであるという趣旨のあいさつがあった。続いて議事に入り、昭和55年度事業報告及び収支決算、昭和56年度事業計画案及び収支予算案について討議した。

昭和55年度事業報告については、第10回全科協博物館事業研究会の実施、ポートピア'81とコンピューター工場の見学会、昭和55年度博物館職員講習に対する協力、全科協ニュースの発行、「科学博物館への招待」の宣伝と斡旋、全科協への入会勧誘、会員館相互の協力事業の実施、博物館資料の斡旋について事務局から説明があり、了承された。

昭和55年度収支決算については、決算書に基づき事務局から説明があり、了承された。その概要は次のとおりである。

収入の部		支出の部	
繰越金	95,134円	事業費	943,410円
会員会費	593,000円	事務費	344,780円
雑収入	786,408円	予備費	0
寄付金	100,000円	繰越金	286,352円
計	1,574,542円	計	1,574,542円

昭和56年度事業計画については、次のような計画が事務局より説明され、承認された。

1. 博物館資料の収集・貸借の斡旋ならびに情報提供
2. 研究会、講習会の実施、協力
 - (1) 第11回全科協博物館事業研究会の実施
 - (2) 国立社会教育研修所で実施する「博物館職員講習」への協力
 - (3) 海外の科学博物館視察旅行の企画

3. 全科協ニュースの発行及び研究成果の発表
4. 会員館園を中心とした科学系博物館に関する普及広報
5. 会員館園に対する協力事業の実施援助

昭和56年度収支予算については、事務局が案を説明し、承認された。予算書の概要は次のとおりである。

収入の部		支出の部	
繰越金	286,352円	事業費	929,600円
会員会費	845,000円	事務費	393,680円
雑収入	290,000円	予備費	198,072円
寄付金	100,000円		
計	1,521,352円	計	1,521,352円

事務局から、会費またはこれに相当する実費は、会費規程により10,000円以上、A(5,000円)、B(3,000円)となっているけれども、昭和57年度からAとBの区別をなくして一律5,000円にしたいという提案があり、了承された。その理由としては郵便料金の値上りのほか、広告収入等不安定な要素ではなく、将来にわたって安定した収入を確保したいということであった。

その他、当日の話し合いの中から主な話題を紹介する。
○会員館園相互の協力事業の実施援助については、各館でかなりの実績があると思われるが、あらかじめ正確な情報が寄せられれば、事業報告として紹介することは可能である。

○海外の科学系博物館視察旅行については、日本博物館協会でも実施しているので、科学系を中心にと分担を決め、内容の充実を図ってほしい。また、2～3年の計画を立てた方が、参加する予定を立てやすい。

○全科協も発足以来10年経過し、資料、情報の交換、専門職員の資質の向上、会員館園の一般に対するPRを実施してきているが、博物館の調査研究という面では全科協として実績がない。今後、科学博物館の専門的な事柄を研究していくという面でも、各会員館の御協力をお願いしたい。

ポートピア'81とコンピューター工場の見学会

全科協の事業として当初4月23日・24日に計画されたポートピア'81とコンピューター工場の見学会は、交通機関のストライキが予想されたため、延期してさる6月1日と2日の両日にわたって行われた。

第1日目は、全科協の維持会員である日本アイ・ビー・エム株式会社の御好意により、同社の野洲工場を会場として実施した。昼食およびオリエンテーションの後、同

社営業企画部門の日高睦行氏により「博物館におけるコンピューター」をテーマとした講演があり、続いて2組に分かれて工場内を見学した。

第2日目は、ポートピア会場において数グループに分かれ、各パビリオンを見学し散会した。

参加者は31名であり、実施後の感想が寄せられているので、いくつか紹介する。

○工場見学の際には、自館の展示品や教材等の製作や保守等に有効なツールや技術を学びたいと思っています。野洲工場の生産ラインは、コンピューターで数値制御された工作機械が活躍し、各工場のテストもコンピューターを介して自動的に行われているため、製作工程を見学するので精一杯でした。

この複雑な工程の合間に、人手によって操作されるものの中に参考となるものを少しかいまみしました。例えばカードテスト装置のカードホルダー、ハンドメイドと思われるテンキーを取り付けた傾斜ボックス、手工具の保管方法、測定器類の配置等です。これらすべてが今後の仕事に取り込めるものではありませんが、いくつかは大いに役立てていきたいと思えます。

また、常に技術変更のための余裕が確保されているのには感心しました。日頃、展示品の制御器等に改良のスペースがないため、勢い改体になりがちです。今後は設計の段階から技術変更の余地を残しておき、よりよい展示にしていきたいものです。(岐阜市少年科学センター丸山順士)

○「博物館にとってコンピューターはどう利用できるか」ということについて、製造工程をつぶさに見学し、講演を聞いたことによって、よく理解でき、認識を新たにしました。

とかく博物館には、マイコンやソフト製作用を除けばコンピューターは不要と考えられがちですが、資料の管理システム、情報の早期検索等に利用する幅広い活用面があることを知り、今後の博物館も時代の波に乗り遅れることなく展開することが必要だと感じました。(富山

市科学文化センター 荒井美浩)

○ファイリングシステムについての私の感想は、各博物館にそれぞれ使い勝手の良いシステムの開発を行い、通信フォーマットのみを決めておく、もしくは全科協、日博協、日動水協の本部のみに細部まで明らかになっているシステムを置いて、互いにアクセスできるようにした方が良いと思うし、本来のコンピューターの使い方であると思う。

ポートピアの見学を終わって、各館の目的が多数を対象に強烈な印象を与える、または少数に木目細かくという2種類にはっきり分かれてきているのを感じた。両方とも意義のある方法ではあるが、これからの博物館としては、コストの点、メンテナンスの点からも後者の方が多くなってくると思われる。その意味で今回の見学は、各館の展示方法が興味深く、博物館職員にもこの種の展示を行う能力の必要性を感じた。(東海大学海洋科学博物館 石橋忠信)

○国立民族学博物館のシステムを例に「博物館におけるコンピューター」について、お話をお伺いした。コンピューターが安価になり使いやすくなってきたため、各博物館の資料が各館のマシンに収納され、各博物館を結ぶコンピューター・ネットワークを通じて、各館の正確な情報が相互に利用されるのも、そんなに遠い将来の話ではないのを感じた。

ポートピア'81では、16館を見学することができた。人気のある、目玉となる展示がコンピューター・コントロールであったことは、今後の博物館展示のあり方を示唆していた。(電気通信科学館 前田隆正)

第10回全科協博物館事業研究会

第10回全科協博物館事業研究会は、「博物館と地域社会」を研究テーマとして、さる6月3日、4日に実施された。会場は国立科学博物館および東京都児童会館で、参加者は22名であった。

第1日目は、福田繁全科協理事長が「博物館の近代化と管理運営上の諸問題」をテーマとし、近代化という問題について博物館ではこれまでどのように努力してきたか、国際的にはどう取り上げられてきたか、それを中心になって扱う職員の訓練の問題等について説明した。続いて研究討議に移り、博物館の社会的地位、博物館の地域社会への対応について話し合った。

2日目は、東京都児童会館を会場とし、地方博物館の当面している諸問題について研究討議を行った後、東京都児童会館の現状を実地見学した。

○近年、科学博物館が全国に数か所建設されてきている

状況の中で、現在運営中や建設中の博物館が地域社会に対して、どのように対処し、アプローチするかという研究会であり、参加したどの館も大なり小なりの苦勞をされている現況を聞き、地方における科学博物館と中央の博物館の違いや、入場状況の違い、公立・私立にとっても種々様々な対応がなされているという認識を深めました。

東京都児童会館の見学では、科学博物館の普及教育事業の各種の教室等の情報交換によって、いろいろなアイデアを生み出し、学芸員や担当者がその館での対応に応えることができるのだと感じました。

なお、この研究会の持ち方については、事務局には大きな負担をかけるかもしれませんが、テーマにそって参加各館から資料提供を義務づけるようにすれば良かったと思います。(富山市科学文化センター 荒井美浩)

東レ理科教育賞作品募集のお知らせ

東レ理科教育賞は、東レ科学振興会が昭和44年に制定したもので、毎年教育上著しい効果をあげた独創的な教材・教具および指導実績を募集して選ばれます。昭和55年度からは、博物館などにおける自然科学教育も対象となりましたが、博物館関係者からの応募は極めて少なく受賞者はありませんでした。

今年度も第13回理科教育賞を次のように募集中ですので、積極的に応募されることをお勧めします。

対 象……中学校、高等学校の生徒などを対象とした理科教育（クラブ活動および博物館などの自然科学教育を含む）

- ① 実験・観察、演示などのための教材・教具（新しいアイデアによる簡単な装置、実験・観察における新しい材料、映画・VTR・スライドなど）の考案。
- ② 新しい方法（機器の新しい活用方法、新しい実験の方法など）の考案、およびこれらの学習指導とくに生徒の自発的学習への利用法。
- ③ 生徒の科学に対する教育を著しく高め、生徒の自発的、創造的活動を盛んにし、よい教育環境をつくるなどの指導のしかたのくふう。

理科教育賞……賞状・銀メダルおよび副賞40万円
(10~15件)

応募資格……中学校・高等学校の生徒などを対象とした理科教育を担当、または研究・指導する者（中学校・高等学校・高等専門学校・大学などの教員、指導主事、教育研究所・理科教育センター、博物館などの所員その他）

応募手続……所定の応募用紙に記入して1部提出する。

応募締切……昭和56年10月15日（必着）

申請書の請求・提出先……財団法人 東レ科学振興会

〒103 東京都中央区日本橋室町2-2

Tel. (03) 245-5919

なお、応募要項は全科協会員館へすでに送付済みですが、念のため紹介させていただきました。

理科教材教具製作ハンドブックを 京都市青少年科学センターで刊行

京都市青少年科学センターでは、昭和44年に発足して以来、理科教育のための教材・教具を数多く開発しているが、それらの集大成ともいえるべき「製作ハンドブック」が刊行された。

主な内容は、教材自作のための材料、教材自作のための工具と加工法、教材教具の自作のための実例、生物教材の飼育培養から成り、特に実例では、物理・化学・生物・地学分野で50点の実験観察器具類が詳細な解説に図を添えて紹介されている。

同センターの実際に生徒を指導された担当者自身が執筆に当たっているため、実験の材料や手順はもちろん、写真や図が使いやすい表現で、全科協の会員館においても教育活動面で参考になるところが大きいと思われる。

B5版で、本文283ページに及ぶこの本は、印刷部数が限られているが、全く同じ内容で近く共立出版株式会社から「科学と実験」の別冊として定価2,600円（送料300）円で刊行される。

会 員 館 園 の 消 息

(新入会)

○倉敷昆虫館 館長 重井 博
〒710 岡山県倉敷市幸町2-30 重井病院8階
Tel. (0864) 22-3655 (内線30)

○(購読会員) 家田健吾
〒441-31 愛知県豊橋市大岩町字火打坂19-16
豊橋市地下資源館
Tel. (0532) 41-2833

(住所変更)

○札幌市青少年科学館建設準備室
〒061-01 北海道札幌市白石区厚別町下野幌493
Tel. (011) 892-5001

○白浜エネルギーランド
〒649-22 和歌山県西牟婁郡白浜町3083
Tel. (07394) 3-2666

○新潟県自然科学館準備室
〒950 新潟県新潟市女池蓮潟東
Tel. (0252) 23-5511

あ と が き

○今年度の全科協ニュース編集委員は、昨年度と同様に次の方々をお願いすることになりました。

石川博幸（府中市立郷土館）、岡本克子（電気通信科学館）、落合善郎（東京都児童会館）、佐藤美知男（交通博

物館）、西山藤一郎（神奈川県立青少年センター）、増沢等（五島プラネタリウム）、山田英徳（科学技術館）

○編集委員の御努力にもかかわらず、本ニュースの発行が大幅に遅れてしまいましたことをお詫いたします。

○皆様の御投稿をお待ちしています。（事務局）